

品質にこだわる カフェ・ボンフィーノ



青木正登
(株)カフェ・ボンフィーノ代表取締役

カフェ・ボンフィーノは、ファスナーと建材で知られる YKK グループのブラジル現地法人が経営する農場で生産されたコーヒー豆の名称で、農場の所在地の地名に由来して名付けられた。この農場から出荷されるコーヒー豆は、主にブラジル国内で消費されているが、一部最高級品を日本に輸出している。これがカフェ・ボンフィーノだ。

なぜ、YKK がコーヒーを？ とよく聞かれるが、YKK グループは 1972 年よりファスナー事業でブラジルに進出し順調に事業規模を拡大していた折、セラード高原の開発に力を入れていたブラジル政府から投資の打診を受けたことがきっかけであったと聞く。勿論 YKK グループでは初めての農業分野への挑戦であった。

1985 年に現地法人の設立と同時に日本から赴任した派遣員は、農学部出身であったものの、灌木しか生えていない痩せたこの土地で無謀にもコーヒー栽培を始めたが思うようにいかない。藁にも縋る気持ちで当時最も権威あるサンパウロ大学のコーヒー学博士の門を叩き最先端の技術の教えを請いながら試行錯誤を繰り返した。

酸性土壌の痩せた土地はコーヒーの栽培には適していなかったが、牛や豚の飼育などによる地道な堆肥作業で有機土壌への改良も行いながら最高級コーヒーに向かって栽培が始まった。最初の 4 年間で植え付けられたコーヒーの苗木の植樹数は 100 万本に達し、東京から広島までコーヒー樹で並木を作ったと例えられている。

YKK 農場とは

首都ブラジリアから南東へ約 300km の、ミナス・ジェライス州ボンフィンポリス市(標

高約 900m) に所在する YKK 農場は、1985 年に開場したが、面積は 3,300 万坪(山手線エリアの約 1.6 倍)、うちコーヒー園約 70 万坪(東京ドーム 40 個分)



であり、主な事業は放牧、酪農、養豚、コーヒー栽培で、従業員数は約 50 名(直接雇用)となっている。コーヒー栽培については、育苗から収穫、精選、乾燥、検査(手作業)、袋詰め、輸出まで、機械化を進めながら一貫生産体制をとる。また、灌漑施設も整えるため干ばつの影響を受けにくく、毎年安定した品質と収穫量を維持している。現在コーヒー生豆の収穫量は約 600 トン/年(内約 20 トンを日本に輸出)で、日本に輸出する生豆は、ロットごとに手作業での全数検査を施し、その作業でピーベリー豆(丸豆)も分別されている。

養豚については、農場で飼育する豚(約 4,000 頭)には農場で栽培したトウモロコシを飼料として与え、そこで採取する肥とコーヒーチェリーの皮を混ぜてつくる自家製有機肥料を活用する。また、隣接するコーヒー農園がなく、病虫害の飛来・伝染病なども少ないため、化学肥料や農薬の使用機会も少なく抑えられている。

カフェ・ボンフィーノ(コーヒー)

コーヒーの品種はアラビカ種カトゥアイを栽培、低木性のこの品種の採用により、JACTO(ブラジル製)社の大型収穫機を使用し、大面積でも最適な時期に収穫できるようになった。レッドとイエローカトゥアイの 2 種類を栽培するが、特にイエローカトゥアイは、日本国内市場での流通量が少ない希少価値のあるコーヒーといえる。

精選方法はブラジルでは珍しいウオッシュド(水洗式)を採用、果実を取り出すまでに 2 段階の選別と発酵作業を通じてクリーンでバランスのよい香味が実現できている。



品質評価については、両種とも毎年 SCAA(全米スペシャルティコーヒー協会)に鑑定を依頼し、カップングテストの結果では 2013 年より 6 年連続でスペシャルティコーヒーの認定基準となる総合評価 80 点を上回っている。とりわけ、甘味(Sweetness)、

透明性(Clean cup)、統一性(Uniformity)は満点の評価を毎年いただいている。

(株)カフェ・ボンフィーノ

ブラジル現地法人からコーヒー生豆を直接

輸入し日本国内での販売を担う。「一本の苗木から一杯のコーヒーまで」一貫通貫でこだわり、2015 年より自家焙煎施設 2 か所と直営カフェ 3 店舗を運営する。

品質へのこだわりから、SCAA(全米スペシャルティコーヒー協会)の鑑定機関で鑑定後、大粒な

ロットからハンドピックで厳選された豆だけを出荷、海上輸送の際はリーファコンテナ(空調コンテナ)を使用し、日本で保管する際も鮮度にこだわり空調倉庫を使用している。

国内 2 か所(東京都内と富山県内)に自家焙煎所を設け、できるだけ新鮮な豆の供給に心がける。また、直営カフェにおいては注文が入ってからコーヒーを挽き、ハンドドリップで淹れることで、カフェ・ボンフィーノの魅力を最大限に引き出せるようにこだわる。

私達の目標は、より良いものを、より良い方法でリーズナブルに提供していくことで、より多くの消費者に喜んでいただくことであり、その結果として農場からの輸入増に繋がりと、農場の繁栄ひいては地域貢献にも繋がっている。

2017 年ボンフィンポリス市庁舎を訪問した際、市長より「このコーヒーは我々の誇りでもあり、世界中に広まることを期待している。」という温かい激励を得た。地域貢献に繋がっていることを改めて認識したうれしい瞬間であった。これからもカフェ・ボンフィーノを美味しく楽しんで頂けるよう「善の巡環」の心で育てていきたい。

“Vamos tomar o Café Bonfino !”

